

PRIUSインターンシップの体験を通じて



海外交流

武田 伸悟*

Experience in PRIUS internship program

Key Words : PRIUS , internship , Singapore

私は平成18年7月14日から9月21日までシンガポールに滞在し、Nanyang Technological University (NTU) でPRIUS (<http://prius.ics.es.osaka-u.ac.jp/>) のインターンシップに参加させていただきました。費用については大阪大学の第1回学生海外短期研究留学助成金を使わせていただきました。シンガポールに入国するのは初めてで、たくさんの発見と驚きがあり、またさまざまなことを経験できましたので簡単ですがご報告します。

シンガポール

シンガポールは人口約430万人の小さな国です。人口の4分の3程度は中国系で、マレー系、インド系の人もたくさんおりとても国際的です。シンガポールの東端にある空港から西端にあるNTUまで、タクシーで30分といえはその小ささが分かります。赤道直下にあるため季節はほとんどなく、熱帯気候で1年中気温は30前後です。赤道直下は非常に熱いと思われがちですが、35を超える大阪の夏よりは過ごしやすかったです。シンガポールの国語はマレー語、公用語は英語となっていますが、中国語も非常によく使われています。シンガポールの英語ではシングリッシュとも呼ばれる方言を話す人もいて、シングリッシュは中国風英語のようなものです。「OK, lah.」や「No, lah.」のように語尾にlah



(中国語の「了」で「です」の意味)を付けたり、主語などを省略して「Can you ~?」に「Can.」や「Cannot.」と答えたりする人もいました。通貨はシンガポールドル(SG\$)が使われており、SG\$1.00が75円程度でした。物価は食料品や交通運賃が安く、とても便利でした。反面、たばこや自動車の税金は非常に高いです。たばこは1箱700円、公共の場で吸うと罰金8万円と愛煙家にとっては厳しいところかも知れません。自動車の高税率は車の増えすぎを防ぐためです。アルコール類は日本とあまり変わりません。

長期滞在でまず気になるのは食べ物ですが、多民族の国であるため中華料理、マレー料理、インド料理、ベジタリアンと基本的に何でもあります。マレーシアやインドネシア、フィリピンからのトロピカルフルーツが集まっており、強烈なおいで有名なドリアンもいたるところで売られています。どこのスーパーマーケットに行ってもドリアンのおいが充満しているほどです。ですがドリアンを電車に持ち込むと罰金刑が科せられるというユニークな法律もあります。食べ物は安く、中華料理店で食べきれないほど注文しても1人1500円程度でしたし、ドラゴンフルーツが1つ50円程度など珍しいフルーツも気軽に食べてみる事ができました。



* Shingo TAKEDA

1980年11月生

大阪大学大学院情報科学研究科博士前期課程修了(2005年)

現在、大阪大学大学院、情報科学研究科、下條研究室、博士後期課程3年、修士、情報科学

TEL : 06-6879-8795

FAX : 06-6879-8794

E-mail : stakeda@ais.cmc.osaka-u.ac.jp

Nanyang Technological University

NTUはシンガポールに4つしかない国立大学の1つで、シンガポールの西端に位置します。都心部にあるNational University of Singapore (NUS)よりもキャンパスが広く、芝はよく手入れされていて



きれいなところですが、熱帯気候のため芝の成長が早く、毎日のように芝を刈っている人を見かけます。学内バスが頻繁に周回しているため移動にも困りませんし、学外に出る公共バスも乗り入れています。日本とは違って、タクシーと同じようにバスも手を挙げないと止まってくれません。キャンパス内にはたくさんの学生寮、職員寮があり、私は院生向け学生寮であるGraduate Hallに住んでいました。私の部屋は1人用でベッド、机、トイレ、シャワー、インターネットのある部屋でしたが、トイレ、シャワーを共有する2人用のところもありました。Canteenと呼ばれる学生食堂がたくさんあり、ここでも中華、マレー、インド、ベジタリアン料理はもちろん、日本、韓国、洋食も選べます。ただし日本食といってもカツ丼がソース味でポテトサラダがのっているなどで、残念ながら本来の日本食は期待で



きません。個人的にはシンガポール独特のチキンライスや中華のめん類、インドのカレーとプラタ(油を付けて焼くためナンとは少し違うパン)などを好んでよく食べ、野菜不足にならないようにパイナップルなどのフルーツを買っていました。キャンパスの中心部にスーパーマーケットがあり、生活に必要な食料品や雑貨を買うこともできます。

ここでも学生の多くは中国系で、大半の人が中国語で会話しています。それでも共通に話すのは英語で、授業はすべて英語で行われます。そのため留学生も多く、ロシア、カナダ、オーストラリア、イラクからきた留学生と知り合うこともできました。

大学での共同研究

私の研究テーマはグリッドコンピューティングのセキュリティに関するものです。グリッドコンピュ



ティングを簡単に言うと、国境や組織の枠を超えてコンピューターやデータをシームレスに(海外や別組織にあることを意識する必要なく)共有しようというものです。このようなグリッドの研究は1組織では不可能です。他の国の、他の大学で研究者、





学生と意見を交換し、またお互いの技術を教えあうことで非常に有意義な研究を行うことができました。

週末にはNTUの研究室の学生やその友達と観光にも行きました。小さな国ですが、その分移動が楽なので気軽にどこへでも行けます。アジア最南端のセントーサ島や国立公園にいたり、National Dayの花火を見に行ったりしました。ほかにも今回は行かなかったのですが、有名な観光スポットにサファリパークがあります。

インターンシップを通して

海外インターンシップに興味がありこのレポートを読んでいる方もおられると思いますが、シンガポールは非常に生活しやすいところでした。治安がよく、食べるものも安くておいしく、交通の便もいいです。EZLink（イージーリンク）と呼ばれるチャージ式のICカードを持っていれば値段を調べる手間もなく電車とバスに乗れます。気温は日中に32程度まで上がりますが、かさばらない夏服だけで生活でき、洗濯物もすぐ乾くという意味では海外滞在向けかもしれません。しいて難点をあげるとすると、日本人がシンガポールにいると中国人と思われ、中国語で話しかけられるという点でしょうか。それでも多民族が集まる国際的な国での2か月あまりはとてもよい経験になりました。インターンシップ先をお考えであればシンガポールを候補に入れてみてはいかがでしょうか。

最後ではありますが、有意義なインターンシップの機会を与えてくださった大阪大学とNTUのスタッフの方々、学生の皆様にお礼申し上げます。

